

令和3年度 成人式



館報 まつかわ

松川町公民館報
第706号
令和4年9月15日

新 成人の主張

令和3年度成人式 意見発表より



伊藤 千聖さん

あまり意識していませんでしたが、中学を卒業してからもう早6年も経つということに気づいて、これを書いているときに驚きを隠しきれなかったのとともに、まだまだつい最近のこのように思います。皆さんの姿を見ても、あま

り変わってないなと思ったりとかもあつたりしたので、そういうところからも最近のこのように思います。思い返せば小中学生の頃は超がつくほどの問題児で両親をはじめ、家族、先生方、クラスメイトにいつも迷惑ばかりかけていました。そんな私でも温かく接してくれた皆さんには頭が上がりません。共に過ごした9年ないし、3年はかけがえのないものでした。本当にありがとうございます。

あと何を話すべきかちょっと悩んでたんですが、私の近況報告みたいなものをしてみたいなと思います。今私は神奈川県に通過して、そこで機械工学を専攻しています。そして学生フォーミュラというプロジェクトに参加していて、そこで大会出場を目指して活動を行っています。学生フォーミュラって何なんだろっていう人が大抵だと思んですけど、簡単に説明すると、自分たちで車を作ってそれを各大学とか専門学校で競って、あとその車をもし作るとなったらどんな作り方をしているのかとか、そういうプレゼンテーションを行う

たりする、そういった競技に参加しています。ただ私達が現役だったタイミングだとコロナ禍で2年間連続で大会が中止になってしまったことであつて自分たちの車を完成させられなかったんです。どのチームも結局一緒なんですけど、後輩への技術を教えていくのがすごい課題になって、チームによっては本当にもうどうしようもないっていう状況になつちやつてるところもあつたりします。で、私はその中でエアロパーツを担当して去年はリーダーをやっていました。なかなか対面で会うっていうのは厳しい、大学の中で会う、大学に入校すること自体がもう厳しかったのでなかなか対面で何かするっていうのは厳しかったんですが、できる限りオンラインで対面的な中で話し合いをしたりとか、できるだけコミュニケーションを取れるように機会を作りました。



近藤 恵哉さん

その結果もあつてか、チームの中でも今では雰囲気が一番良くて、とても仲良くできている部門ができたんじゃないかなっていうふうに思っています。なのでコロナ禍でどうしてもコミュニケーションが取れない中ではあると思うんですが、とてもコミュニケーションを取るための重要なことなのを知る機会になつたなつて思います。また先日、2020年に設計していたマシンが走行までできなかったんですが、後輩たちが頑張ってくれたおかげで形になりました。来月大会が行われるんですが、その大会に参戦して体験・経験をしていただくっていうところができるようにこれからまたサポートを続けていけたらというふうに思っています。

成人式が行われるということで、中学校卒業以来会っていない人と会えることをとても楽しみにしていました。中学時代の思い出はとにかく陸上に没頭していたように思います。コミュニケーションが取れない中、林先生とマンツーマンで競技場での練習は今でも鮮明に記憶に残っており、思い出すだけで鳥肌ものです。また中学時代覚えていたことは、仲の良い男たちですつと騒ぎ、授業の邪魔をしていました。今考えると、迷惑な奴だったと思います。今村先生をはじめ2組の皆さん、本当にごめんなさい。さて、私事ではございますが、高校卒業後、軽井沢のホテルに就職し、料理人として勤めていたんですが、現在は転職をして、東京の会社で営業マンをしています。未経験で右も左もわからない職種に転職を決めたときは不安な気持ちが大きく、めちゃくちゃびびっていました。ですが、なぜ転職したのかというお話ができればと思います。元々料理が好きで入ったホテルでしたが、毎日の業務がめちゃくちゃ退屈でした。なんとなく過ごす日々、料

理のことを提案しても、話も聞いてもらえない。

そんな毎日を過ごす中で、このまま続けていて、人生悔いなく死ぬるのかなあとというふうに考えた日がありました。

給料、やりがい、休みの日数、人により大事なものは違うと思います。

自分が最も大事にするものは、やりがい、成り上がれるか、楽しいか、この三つです。

現在は日本一の会社、日本の営業マンになるべく日々過ごしているのでも、とても充実しています。

私達を今まで支え育てくださったのは皆様の愛情だと思います。

私達は、今後社会の一員として責任ある行動をとらなくてはなりません。

これから先、どのような人生を歩み、社会貢献をしようか真剣に考えます。

最後になりましたが、今日まで育ててくれた両親、本日の式典のためにご尽力いただいた関係者の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

そして、今までの恩返しの意味を込め、今度は私が周囲を支えられるようにこれからも頑張っていきたいです。

高柳 佑太さん



2020年から猛威を振るいだしたコロナウイルス、私達は生活を大きく変化させました。

マスク着用の義務が必要となり、外出も大きく制限され、ソーシャルディスタンスを意識した生活へと変化してきました。

我々の成人式も1年延期され、準備されてきた成人式実行委員会や教育委員会、そして役場の方々、大変悔しい思いをされたと思います。

その中でこうして素晴らしい成人式をやっていただけるのは感謝の念しかありません。本当にありがとうございます。

少しばかり私の過去の話を見せていただきます。

今まで歩んできた22年間を振り返ると様々なことがありました。

親の仕事の影響で、転勤族だった私は仲良くなつては離れ、また仲良くなつては離れなど、そういう生活を繰り返してきました。

まだ10歳にも満たない私にとって、その生活はとても苦しかった一方、これが普通の生活なんだと自分自身何か悟ったように考えていたこともありました。

ただその一瞬を懸命に生きてきたという部分はあります。

他の友達、それこそ松川に来る前ですが、嬉々として自分の故郷の話、僕の地元はこんな感じなんだよなど、笑顔で話してくるとき、どうい感情なんだろうなと思いがら聞いていたのを思い出します。

そんな中、小学校2年生の3学期、僕はこの松川町に降り立ちました。

初めて松川に来たときの衝撃は未だに忘れることができせん。

雪が降りしきる中、あたりを見れば果樹園ばかり。山に囲まれ、登下校の道も山ばかり。正直こんなところで生活できるのかと思った記憶がございます。

しかしながら、そんな一抹の不安は杞憂に終わるようになりました。

愉快的な友人、厳しくも優しい先生方。

そして、馬鹿なことをして怒られながらもこうして成長することができたのは、一重に皆様のおかげだと思えます。本当にありがとうございます。

近所で日が暮れるまで遊び、行事があるとワクワクしながら出かけ、強くなりたいと願いながら打ち込んだ部活動など、挙げればきりが無いほど、この松川町の思い出が溢れてきます。

故郷を持っていない、持っていない、悲しんでいた過去は嘘のように消え、今では強く松川町が故郷だと言うことができます。

中学校卒業後、皆様各々の生活を送ってきたと思えます。

私は長野市の学校に進学し遠く友達がいない場所で寮生活を行いました。

親と離れての生活は学ぶことが多く、なかなかしんどい生活でした。

親がいなければ朝はなかなか起きられないこと。寝ながら食事は出ないこと。

服を脱ぐだけでは全然洗濯されていないこと。

僕が考えてきた普通の生活というものはなかなか当たり前ではないということに気づ

かされました。

両親の愛情によって、何ん自由なく過ごしてきた私ですが、今では感謝してもしきれません。

その甲斐もあり、長野市での生活は多くの人と出会い、夢を語り合い、そしてバイトも忙しく続け、アメリカへ短期ですが留学もすることができました。

そして私は現在、新潟県の大学でエネルギー・経済・経営などの分野を専門とし、研究を進めています。来年度からは大学院へ進学も決まりました。

私自身の目標である世界で活躍できる人材というものを目指し、これからもひたむきに精進していきたいと考えております。

ここまで自分のことについて語っていましたが、ここにいる新成人の皆さん一人一人がそれぞれの人生を歩んできたことと思います。

きっと楽しいことばかりではなく、つらいこと苦しいことなどいろいろなことを経て、この場にいるのではないのでしょうか？

こうして、日々葛藤を背負いながら生きていくということが我々が新成人になり大人になるということなのではないかと最近感じています。



コロナ禍 検温受付



開式の挨拶

今までと
違う
成人式!!



実行委員長挨拶

実行委員
による
式の進行



司会



1年越しの
開催に
会話も弾む



コロナ禍でもあり
パーティーができず
残念でしたが
フリータイムでは
皆さん楽しい笑顔で
いっぱい!!



感動&達成感のふるさと登山



清々しい朝5時過ぎ、烏帽子岳に思いを馳せる皆さんが上片桐改善センターに集合、仰ぎ見る頂は快晴のキャンパスの中にありました。

参加者は小学生の親子など総勢20人、2回の事前研修とコロナ対策を取って3年ぶりの開催となりました。

登山口の鳩打峠で準備体操をして体をほぐし、班ごとに出発。元気な話し声も3合目過ぎからは途絶え、黙々とした歩みになりました。

大休止の5合目では行動食の交換などもあって元気を回復、7合目前後のツェキナギ



では大崩落地を横目に無事通過することが出来ました。急登が続く中で尾根越えの冷風に癒され、8合目のシラビソ林の地蔵平ではお地蔵さんに登山の安全を祈願しいざ頂へ。

稜線に出るとそこが烏帽子岩、ザックを置いてよじ登った先には壮大な「ふるさと伊那谷」が広がり、異次元の光景に疲れも吹き飛ぶ歓喜となりました。

両アルプスを眺めながらの山頂での昼食は、無数の赤トンボが至福の時を演出してくれました。

今までにない天候に恵まれた中、無事に下山することができ、思い出深い山行となりました。

ふるさと山の会

松川町今昔

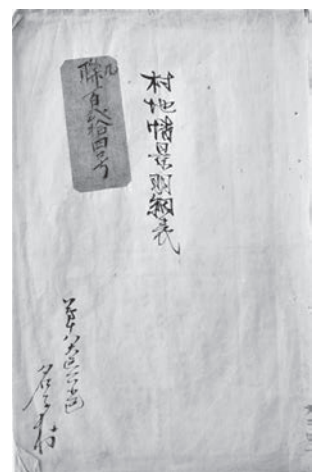
資料館だより

第72回

「明治はじめの町村合併」その1



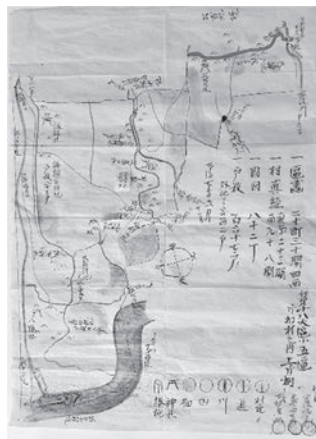
慶応4年(1868)9月に明治となりました。そして明治4年(1871)7月廃藩置県となり、11月には所属のそれぞれ違っていた村々も、設置された筑摩県のもとにまとまりました。筑摩県の県庁は松本にありましたが、飯田町に飯田出張所がおかれ、明治7年から8年にかけて町村合併が行われました。筑摩県の町村合併は、全国の県の合併に対して、多くの村を一つにまとめようとした特色がありました。明治8年1月名子村・上新井村・古町村の大島三か村に対して、



上平村・山吹村・北駒場村・北駒場村新田・竜口村の山吹五か村を合わせ、八か村を「里見村」と名付けました。

合併に向けて、各村々から村の実状を報告させた書類や絵図が松川町資料館に展示されています。それは名子村の提出した書類の控えと、上片桐村の提出した絵図の控えです。提出は明治7年5月です。

第18大区6小区の名子村が提出した書類は、「村地情景明細表」という題です。その中には大変多くの村の実状が書かれています。まず村の田畑の反別・村の広さ(面積)・地形・地質・山の状況・気候・原



野・道路などが書かれており、それから建物(寺院・学校など)・用水・橋梁・神社などが書かれています。それから村入費・税・歳入・歳出・収穫・人口・職業など、村の状況が幅広く書かれています。

そして絵図には、村境・道・川・田・畑・山林などがカラーで描かれ、神社が描かれています。また村内の集落名とともに戸数も記入されています。2つの村の絵図を見ると、描き方が同じであることから、絵図だけでなく、「村地情景明細表」という書類も、筑摩県から書き方などの指示が出されたものだと思います。

合併後数年で多くの村が分村を願っています。次回紹介します。

松川町資料館
伊坪 達郎

(続く)

第14回 松川町民ゴルフ大会

7月30日(土)、31日(日)に高森カントリークラブで第14回町民ゴルフ大会が開催されました。

本年度は、定員を大きく超える参加応募がありました。2日間の開催となりました。

両日とも天候に恵まれ、爽やかな暑さの中、参加者の皆さんはそれぞれ懇親を深めている様子でした。



大会結果は：

優勝 櫻井 伸治
準優勝 寺澤 和也
3位 中村 憲正
4位 今野 俊次
5位 武田 哲也

※今大会は、男女混合順位での表彰となりました。

小八郎登山にいったきました!



8月21日(日)、中央公民館体育部主催の小八郎登山が行われました。

今回、編集部新入部員の細江さんが登山に初挑戦! 一体どんな様子だったのでしょうか。

ふうと一息。小八郎岳から帰ったばかり。帰りのバスの中でもう腰が痛かった。

人生初の登山であった。

登山口の一步目からキツかった。いきなり急坂の階段が始まる。知らなかったのでイメージでは、まあまあならかな所を歩かずだった。

前日は大雨で登山は中止だろうと勝手に早合点して、ちゃんと朝の準備もしないであわてて行った。(すみません) 一步一步進みつつ、キノコや花を見た。30分登った。

たところ酸欠? かなにかで頭の中が白くなりくらぐら体がふらふらになって、私だけ途中でスタツフと先に下山となった。頂上まであと10分だったらしい。トンビが近くで鳴いていた。

私が動けなくなったところでは、スタツフがまず休めるようにタオルを敷いてくれてペタンと腰を下ろすことが出来た。この時ものすごく心がほっとした。そして冷たいエネルギーゼリーとおにぎりを渡してくれた。ゼリーをすぐ口にしてみる。おいしくて体がほっとしてちよつと涙が出そうになった。

登山者参加者は20名弱だったろうか。ほとんどの方が登山靴を履き、多くの方は体にフィットした長袖Tシャツに半袖Tシャツを重ね、下はハーフパンツに足首までのスパッツ姿だった。

当たり前と思うかもしれないが、私はそれも知らず、本当に初めてで、笑われるのを覚悟で言えば雨具も持っていなかった。

頂上まで行った参加者の皆さんの大人の方から子供たちも雨の中ちゃんとカッパを着て帰ってきてたので感心し、びしょびしよにならず良かったと思った。

頂上では視界が開けた間もあって、きれいな景色が見えたとのこと。

帰りのバスで、公民館長が「明日筋肉痛ならまだ若い、2〜3日後に筋肉痛ならもう歳です。」とみんなを笑わせ、疲れも吹き飛ばそうだった。

最後、スタツフの方々、今日の仲間の皆さんご一緒できてよかった。

ひととひと 男と女いきいき講座 ~子と親のかかわり~

第3弾

子どものサインが見えますか?

講師：茅野 理恵 信州大学教育学系准教授

- ◆日時…令和4年10月15日(土) 受付13:00 講演13:30~15:30
- ◆場所…松川町中央公民館 えみりあホール
- ◆定員…60名 参加費無料

お申し込みは

松川町中央公民館
☎36-2622 FAX36-6620 まで



*託児所を用意しております。
*子育て中の皆様、保育、学校関係者のお越しをお待ちしております。

地域を知る講座

片切氏の痕跡を訪ねる

◆日時：9月25日(日) 午前8時30分
(中央公民館えみりあ 集合)

◆募集定員 30人

◆申し込み先 中央公民館 36-2622

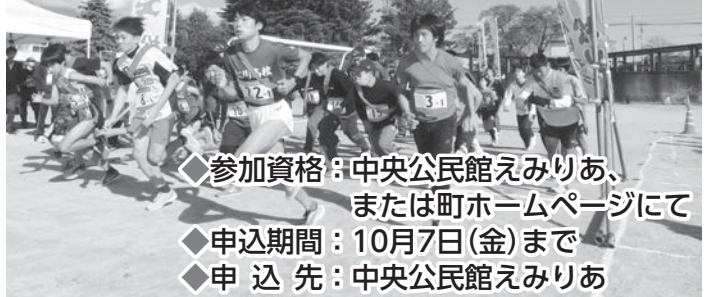
平安時代の終わり頃からこの地を支配していた源氏一族の片切氏の痕跡のうち、今回は松川町・中川村エリアをマイクロバスで巡ります。



情報

第37回 松川町駅伝大会

11月6日(日) 8:00開会



- ◆参加資格：中央公民館えみりあ、または町ホームページにて
- ◆申込期間：10月7日(金)まで
- ◆申込先：中央公民館えみりあ

す ぽと 水明山 嶺岳寺

最近は何種メディアで紹介されることも多いのでご紹介の方も多々と思いますが、この時期になると一面が彼岸花で真っ赤に染まる素敵なお寺です。今回住職の広沢勝則さんにお話を伺うことが出来ましたのでご紹介いたします。

嶺岳寺は1589年に開創されたお寺で、広沢さんで18代目になるとのこと。もともと花や植物が好きで、45年ほど前から彼岸花を増やしていき、今では1000㎡、10万本にまで広がっています。これを一人で管理してきたというから驚きです。

多い時には県内外から訪れる方の車や観光バスが400台にもなるほど大人気で、プロの写真家も訪れているようです。彼岸花への思いを伺うと、「松川町で花を楽しめるところが少ないと感じていた。観光客も果物狩りだけして帰ってしまう。西にりんごの赤、



お伺いした時には白い彼岸花がいくつか咲いていました。

東に彼岸花の赤で松川町が真っ赤に色づくのが目標。どんどん増やしてお客様にみていただきたい。」と語っていらつしやいました。

見頃や見所をお聞きすると、「例年はお彼岸の頃。でも今年は少し早めで彼岸前には満開になるかも。下草の『緑』、彼岸花の『赤』、梅の古木の『黒』の3色（空の『青』を入れて4色とも）のコントラストが見所。」だそうです。

住職曰く「地元の人よりも県外の人に知られている。」このお寺。彼岸花の見頃の最盛期は1週間程度で終わってしまうようです。みなさんぜひこの機会に嶺岳寺にいつてみてはいかがでしょうか。



- ① 湧き水。コーヒーに使う人もいるらしい。
- ② 黄金観音金蓮が上がるかも？
- ③ 彼岸（悲願）の鐘。悲願が叶うとか。
- ④ 点在する小さい石仏も魅力。

新宮ヶ瀬橋を渡る新コース!! 松川町駅伝大会

毎年11月に行われる松川町の伝統イベント、松川町駅伝大会。

一昨年は新型コロナウイルスにより中止となりましたが、昨年に引き続き今年も開催されます。コロナ対策で周回コースとなった前回の駅伝大会からコースをリニューアルするなど今年も中央公民館体育部員のみなさんを中心に検討されています。

体育部部长 松下和也さんに今年の駅伝大会についてお話を伺いました。

開催について

ここ数年の新型コロナウイルスウィルス蔓延によりイベント関係が減少傾向にある中ではありますが、今年度の松川町駅伝大会は開催する方向で現在準備を進めています。

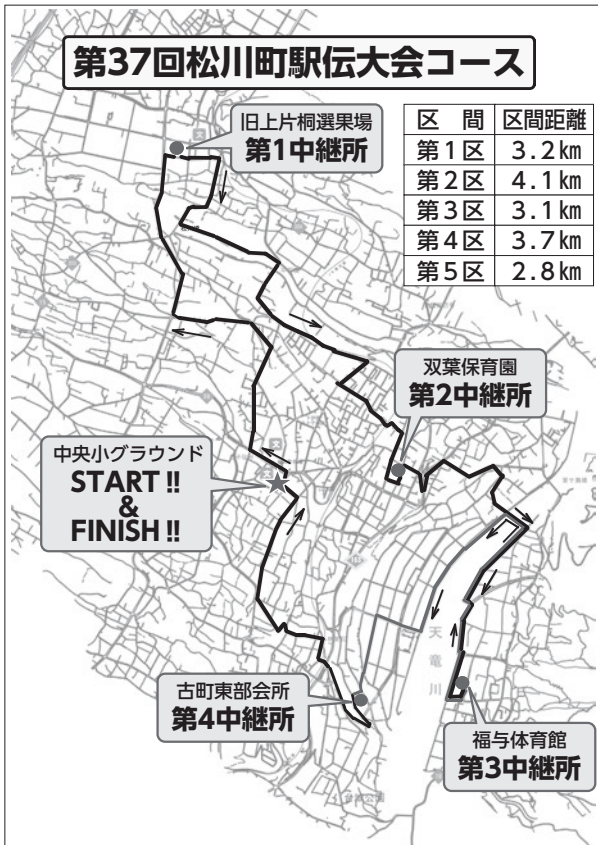


コースについて

昨年度はコースを変更して、周回コースという形でコロナ対策を行いました。今年度はコロナ対策を充分に行い、例年通りの町内を一周するコースとなります。

3年ぶりに町内を周るコースになるので、中継所も4箇所設けることとなります。そのため多くの皆様にご協力を頂く事になります。屋外での開催という事もあ

第37回松川町駅伝大会コース



り、感染のリスクは抑えられると考えています。また会場についても密にならない様考慮し開催にあたりたいと思います。

体育部部长から

松川町で長年行われている駅伝大会がこの先も継続していける様、体育部一同尽力して参ります。

町内の皆様には数多くのスポーツに触れて頂きたいと思っています。第37回目となる松川町駅伝大会。今年も多くの皆様のご参加をお待ちしております。



楽人の太鼓とともに狼煙が上がる

第15回

武田信玄 狼煙りしー

戦国時代の情報伝達として使われていた狼煙。その狼煙を再現し伊那谷各所を狼煙でつなぐ「武田信玄狼煙りしー」が、8月27日に行われました。

松川町の会場は古町の台城公園です。台城公園はかつて

の大島城で、戦国時代に武田信玄の命によって今の形に築城された武田信玄ゆかりの地です。

事前準備に当たった中央公民館や地元古町の皆さんのほか一般の皆さんが参加。また、上新井を中心とした地元マレットゴルフ愛好家の皆さんが、このイベントのために自主的に草刈りを行い、整備された状態で実施することができました。

狼煙台には杉のほか、よもぎを入れると煙が良く上がるといふことで、古町の皆さんがよもぎを用意し、慣れた手つきで2基の狼煙台を立てました。



台城今昔物語を披露

今年のアトラクションも

点火を待つ間、おいなんよ松川のみなさんが、自分たちで作った紙芝居「台城今昔物語」を披露しました。

おいなんよ松川のみなさんは、町内各所のガイドボランティアを行っている皆さんです。紙芝居は小学生に台城を案内する際に見てもらおうと製作されました。

せっかくのこの機会にと、題材となつている台城の現地で披露されました。

また、太鼓一芸楽人のみなさんが太鼓演奏を披露しました。

た。

楽人のみなさんは、7月のあらいの祇園祭では雨のため出演中止。また、飯田のりんごんにも出演予定でしたが、新型コロナウイルスでイベントが中止となつてしまいました。そのため人前での演奏は、今年が初めてのことだったということです。

つながった狼煙

この日は、最初の狼煙が根羽村で上げられ、それを見た次の地点の会場で狼煙を上げます。こうして伊那谷を南から順番に狼煙を上げ、塩尻まで狼煙をつなぎます。

この日はかなりかすんでいましたが飯田市久米の城山公園から上がる狼煙が見られました。

そして、高森町吉田城址で上げられた狼煙が見えたところで台城も点火をしました。

もくもくと真っ白な煙が上がると、台城の狼煙が次の地点に伝えられました。

台城の狼煙が上がると、次は中川村の陣馬形山から狼煙が上がると、こうして、この日は塩尻まで狼煙がつながりました。

2022年

7月に姪が生まれました。里帰り出産の為、普段は一緒に暮らしていない姉が帰ってきていて、久しぶりに家族勢ぞろいです。うちには大きなオデブ猫もいて、とても賑やかで楽しいです。産まれたばかりの赤ちゃんは本当に小さくて、うちの猫の三分の一くらいの大さきでした。赤ちゃんが小さいのか…。猫が大きいのか…。(笑)泣くと家族で順番に抱っこしてあげます。縦抱きじゃないと落ち着かないみたいで、横にするとすぐ泣きます。最初は首も据わってないし、うまく抱っこできませんでしたが、だんだん慣れてきました。一か月ほどたつと、少しずつ大きくなっているなあ」と感じます。だんだん「あー」とか声が出るようになるようになってきて、笑ったりすることも増えてきました。笑った顔はもちろん最高にかわいいですが泣いている顔もたまりません。寝顔はめっちゃ癒されます。私たちに笑顔をくれるかわいいうつ子の誕生に感謝です。これからの成長が本当に楽しみです。

原 美保子

公民館報
「まつかわ」
第706号
令和4年9月15日
発行所 松川町公民館 隆
責任者 山崎 編
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@town.matsukawa.lg.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷株式会社